

奈良女子大学編

① 教育（地方創生を担う人材育成）について

1. 「地域志向科目」について

ＣＯＣ＋事業の目的に沿った人材育成のために必要な学修を実施する科目として「地域志向科目」を開講しました。地域志向科目は、社会の未来を切り拓こうとする人材の育成を目指して、地域を知り、地域の課題を発見し、解決策を提案し実践に取り組む科目として開設されています。

2. 「地域志向科目」の実施

平成２８年度地域志向科目として開講したのは次の２９科目です。

区 分	科目名	授業概要	担当教員
教養教育 科目	パサージュ 1A	奈良を学ぶ、奈良で学ぶ：本学に進学した理由には色々あると思います。しかし、歴史遺産の宝庫、奈良で学び、女子教育の最高峰、女子高等師範学校の伝統を持つ奈良女で学ぶメリットを最大限に活用する４年間を送ってほしいと考えます。本学の環境を生かした歴史・文学・地理の視点・考え方を体験的に学んでいただきます。奈良女へ進学して良かったと思える授業を目指します。	内田 忠賢
教養教育 科目	パサージュ 1B	奈良を学ぶ、奈良で学ぶ：本学に進学した理由には色々あると思います。しかし、歴史遺産の宝庫、奈良で学び、女子教育の最高峰、女子高等師範学校の伝統を持つ奈良女で学ぶメリットを最大限に活用する４年間を送ってほしいと考えます。本学の環境を生かした歴史・文学・地理の視点・考え方を体験的に学んでいただきます。奈良女へ進学して良かったと思える授業を目指します。	内田 忠賢
教養教育 科目	パサージュ 20A	下市町へ行こう！：奈良県の中山間地域を見る。本学の共生科学研究センターの協力も得ながら、受講者に、「地域の現状を実感してもらおう」というのが一番のテーマです。社会問題として注目されている地方の維持・再生とも関係した「中山間地域」について、奈良県を事例として、その現状と課題について考えてみたいと思います。みなさんは奈良にキャンパスのある奈良女子大学で学んでいるので、この授業を通して、広い意味での奈良をもっと知って欲しいとも思っています。	高田 将志 吉田 容子
教養教育 科目	なら学 (*1)	皆さんが暮らす（通う）土地となった奈良。その奈良について、いろんな角度から紹介し、講じます。この授業は、「奈良」をキーワードにして、奈良女子大学の多様な学びに触れ・知る「入門」となる授業をリレー講義形式でおこないます。	寺岡 伸悟 他
教養教育 科目	環太平洋 くろしお 文化論	奈良県は、環太平洋黒潮海廊と古代大和盆地を南北に縦貫する幹線の十字路に位置し、環太平洋黒潮海廊である紀ノ川・吉野川・橿田川ルートは古代日本の産業・文化幹線であった。この授業では、日本の国と文化が生まれた場としての奈良を紀伊半島と不可分の地としてとらえなおし、その地政学的位置、世界とのつながり、国内交通、中心性を帯びる理由、流通・経済・文化・宗教的背景など、多面的視点から考えていく。	小路田 泰直 他

区 分	科目名	授業概要	担当教員
キャリア教育 科目	キャリアデザイン・ ゼミナールB(11)	「奈良の食をさぐる」：近年、地域で生産した食材を地域で消費する「地産地消」運動が、地域活性化とも関連して盛んになりつつある。奈良県においても大和野菜などの農産物を始め様々な食材が生産されているが、知名度はまだ高くない。本科目では、奈良の食プロジェクトの活動を通じ、学生が主体となり、地産地消や地域活性化の取り組みに参画することを通して、奈良の食と地域活性化について理解を深める課題解決型授業を行う。	高村 仁知
キャリア教育 科目	キャリアデザイン・ ゼミナールB(17)	「奈良の食を知る」：近年、地域で生産した食材を地域で消費する地産地消運動が、地域活性化とも関連して盛んになりつつある。奈良県においても大和野菜などの農産物を始め様々な食材が生産されているが、知名度はまだ高くない。本科目では、奈良の食プロジェクトの活動を通じ、学生が主体となり、地産地消や地域活性化の取り組みに参画する。これにより、奈良の食に関する理解と関心を高めるとともに、地産地消や地域活性化の取り組みを理解する課題解決型授業を行う。	高村 仁知
キャリア教育 科目	キャリアデザイン・ ゼミナールB(41)	ウォーキングは、比較的軽度の強度で長時間持続出来る運動であり、体内脂肪を燃焼させ、肥満の防止・治療となる。また、高血圧症に対し血圧低下の作用を有する。あるいは、軽度の鬱に対して、抗鬱作用があることが知られている。ウォーキングは、運動靴と軽装の準備のみで行うことができ、比較的日常生活に取り入れやすい運動である。本実習では、実際に奈良女子大学付近を歩きながら、ウォーキングの運動生理学と実際について実習する。これにより、各自の健康のためのウォーキングを体験実習するだけでなく、他の人にウォーキングについて助言可能になる。	三木 健寿
キャリア教育 科目	キャリアデザイン・ ゼミナールB(42)	ウォーキングは、比較的軽度の強度で長時間持続出来る運動であり、体内脂肪を燃焼させ、肥満の防止・治療となる。また、高血圧症に対し血圧低下の作用を有する。あるいは、軽度の鬱に対して、抗鬱作用があることが知られている。ウォーキングは、運動靴と軽装の準備のみで行うことができ、比較的日常生活に取り入れやすい運動である。本実習では、実際に奈良女子大学付近を歩きながら、ウォーキングの運動生理学と実際について実習する。これにより、各自の健康のためのウォーキングを体験実習するだけでなく、他の人にウォーキングについて助言可能になる。	三木 健寿
キャリア教育 科目	キャリアデザイン・ ゼミナールB(46)	海外にある交流協定大学からの留学生を主な対象として実施するサマープログラム（7月：英語プログラム、8月：日本語プログラム）において、運営補助および学生交流企画の立案・実行をする。	横山 茂雄 雲島 知恵 松永 光代
キャリア教育 科目	キャリアデザイン・ ゼミナールB(52) （＊2）	この科目はOC+関連科目である。奈良東南部地域の課題のひとつである林業について総合的に理解し、暮らしの中の木の活用について学ぶ。奈良の木を用いたモノ作りを通して素材としての木を理解し、木のある暮らしの実践を考え提案する。奈良の木を用いたお箸とスツール製作および、奈良県・奈良の木ブランド課が実施する「奈良の木の匠養成塾」に参加する。	室崎 千重 他

区 分	科目名	授業概要	担当教員
キャリア教育 科目	キャリアデザイン・ ゼミナールB(53)	この科目は、COC+関連科目である。奈良東南部地域の課題のひとつである林業について総合的に理解し、奈良の木の暮らしの中での活用について学ぶ。奈良の木を用いたモノ作りを通して素材としての木を理解し、木のある暮らしで使うモノを考え提案する。奈良十津川村にて1泊2日で行う間伐材伐採体験や地域の暮らしの体験を通じて、林業や地域への理解を深める。奈良の木を用いて、新たな木のある暮らしに繋がる商品、プロジェクトを考え、具体的な提案を行う。	室崎 千重 他
キャリア教育 科目	キャリアデザイン・ ゼミナールC(4) (*3)	奈良女子大学の学生であれば、実家への帰省の際や就職活動の面接の場などで「奈良ってどんな場所ですか」と質問されるケースが多くあると思います。「鹿がいる町」「お寺や神社が多い町」と無難な回答をするのも悪くないですが、もう少しスマートな回答ができると好印象を残せることでしょう。本講義では、奈良県が誇る「日本一」の産業をリレー講義形式で紹介します。意外と奈良県内にも「日本一」の産業がたくさんある、ということに驚くことでしょう。一般教養として、就職に向けた業界研究の一環として、全学部の学生に受講を推奨します。「日本一」の看板を守る業界トップの方のお話しが聞ける絶好のチャンスです。	藤原 素子
文学部 専門教育 科目	なら学概論B	この授業は、奈良に4年間住む(通う)ことになった皆さんに、さらに奈良の魅力や特徴を知ってもらうために、1、奈良県の地域ごとの特徴、様々な文化的特徴、奈良県の歴史の概要、さらに観光など現代の奈良の魅力発掘・発信について解説し、時にゲストも交えて、奈良県について広い知識とイメージをもてるようにする。2、いま各地で地元学など、町や村の魅力発掘発信が盛んに行われている。そうした地域づくりの観点から奈良を事例に考え、そのスキルを実践し学ぶ。	寺岡 伸悟
文学部 専門教育 科目	歴史地理学 概論	地理的事象を主たる研究対象とする地理学にあって、歴史地理学は空間軸に時間軸を付加して地域・景観へアプローチする。まず、歴史地理学の本質と方法について概説し、ついで、奈良盆地を主たるフィールドとして地割と村落景観および古代都市、特に都城の形態に関して、具体的な事例を通して解説を加える。これらを通じて古代を中心として地表空間の組織化およびその景観的表象の歴史的変遷を明らかにするとともに歴史地理学についての理解を深める。	出田 和久
文学部 専門教育 科目	文化人類学 特殊研究	稲作と農耕儀礼、神事芸能との関係性について、大和盆地の農耕儀礼に焦点をあてて、地域的特性と歴史的な展開過程を解明します。後期開講の授業では、秋祭りから寺院の修正会・修二会等の年初の除災行事と春先の農業の予祝儀礼である御田植祭をとりあげます。	武藤 康弘
文学部 専門教育 科目	なら学 フィールドワーク 実習	一般の方に、奈良の地域文化資源や魅力を伝える(冊子等の)コンテンツの作成を「想定」しながら、文献資料検索などで基礎的知識や観点を獲得し、そこで得た視点で、実際に奈良をフィールドワークし、学外のコンテンツ作成の専門家と共同で、統一した枠組みのなかで奈良の情報や魅力を表現する成果物の制作の過程を学ぶ。	寺岡 伸悟

区 分	科目名	授業概要	担当教員
文学部 専門教育 科目	歴史学実習	フィールドワーク調査を実際に行うなかで、歴史的感性を養い、過去を復元する能力の習得をめざす。2泊3日程度のフィールドワークも実施し、調査報告書を作成する。 なお、受講予定者は、前期に実施する「歴史学実習予備調査」の情報に注意しておくこと。	西谷地 晴美 他
文学部 専門教育 科目	コミュニティ・ リサーチ	地域コミュニティの課題把握法 日本の地域コミュニティは、少子高齢化の進展にともなって深刻な危機に直面している。その様相は都市と地方で異なっているうえに、学際的に対応すべき多面性も呈している。その一方で、地域コミュニティの抱える課題を住民自身がリサーチし、将来のヴィジョンを形成して、具体的なアクションへつなげていくような動きも活発化している。この授業では、そうした地域リサーチの方法と実践を習得する。	水垣 源太郎 寺岡 伸悟
文学部 専門教育 科目	コミュニティ・ アクション	地域コミュニティの課題解決に向けた活動実践 日本の地域コミュニティは、少子高齢化の進展にともなって深刻な危機に直面している。その様相は都市と地方で異なっているうえに、学際的に対応すべき多面性も呈している。その一方で、地域コミュニティの抱える課題を住民自身がリサーチし、将来のヴィジョンを形成して、具体的なアクションへつなげていくような動きも活発化している。この授業では、前期のコミュニティ・リサーチを踏まえ、そうした地域課題に対するアクションの方法と実践を習得する。	寺岡 伸悟 水垣 源太郎
文学部 専門教育 科目	文化メディア 学実習 B	取材実習。奈良県内のフィールドワークおよび調査報告書の作成。今年度は、生駒市の宝山寺門前町を取材します。この門前町は宗教集落、観光集落、歓楽街など多様な顔を持つ、大都市近郊のとても興味深いフィールドです。前期開講「現代民俗論演習」と連動する内容なので、そちらの科目も必ず履修すること。	内田 忠賢
文学部 専門教育 科目	なら学演習	奈良に関連するものとして、寺社の儀礼や、伝統的町並みとその活用、伝統工芸や食文化、地域づくり等のテーマをあらかじめ提示します。学生各自が、その中から個別のテーマを選んで、研究発表をして全員で討議します。また、実地のフィールドワークも予定しています。奈良を中心にしてテーマ設定をしていますが、必ずしも奈良に限定するものではなく、学生が希望するテーマ、他地域と奈良の比較という観点も可能です。	武藤 康弘 寺岡 伸悟
文学部 専門教育 科目	地域探究 実践演習	現在、社会問題として注目されている地方の維持・再生とも関係した「中山間地域」について、本学の共生科学研究センターの協力も得ながら、その現状と課題について考える。前半は、奈良県吉野郡下市町を事例として取り上げる。後半は、奈良県南部の十津川村を訪問し、2011 年紀伊半島大水害のその後の状況などを調査する。2つの事例の「中山間地域」にみられる共通点や相違点なども考えつつ、奈良県に位置する奈良女子大学で学んでいる皆さんに、広い意味での奈良を色々とよく知ってもらいたいと考えている。	高田 将志 吉田 容子

区 分	科目名	授業概要	担当教員
文学部 専門教育 科目	地域社会の 課題演習	私たちの社会は、常に大きく変化している。例えば、経済のグローバル化の影響は、外国人労働者やその家族の居住するエスニック・コミュニティを生み出したり、外国人観光客の増加で、観光地や商業地のなかには賑わいを取り戻しているところがある。一方で、少子化や高齢化の進展は、地方における過疎化を加速させ、限界集落を生み出している。本授業では、私たちの生活の拠りどころである「地域社会」が現在どのような問題に直面しているのかを、受講生と一緒に、諸地域の事例を収集しながら見ていく。 *本授業では、地域社会の現状や直面している問題について、受講生が主体的に情報収集を行って問題提起を行う。また、授業時間外の現地見学・調査（奈良県内・日帰り）や、ゲストスピーカーの講演を予定している。	吉田 容子
文学部 専門教育 科目	現代民俗論 演習	奈良県内の伝統地域、伝統社会、伝統文化の変容を学びます。今回は、大都市近郊の宗教集落、生駒市の宝山寺門前町について深く学びます。この門前町は宗教集落であると同時に、観光地、歓楽街の顔を持つ、とても興味深い地域です。授業では、宗教集落、門前町に関する諸研究、宝山寺門前町に関する調査報告などを精読します。前期開講「文化メディア学実習B」と連動する内容ですので、そちらの科目も必ず履修すること。	内田 忠賢
理学部 専門科目	森林生物学 野外実習	奈良県は面積の 77%を森林が占める全国有数の森林県である。また、ニホンジカが高密度で生息する山林が随所にある。この実習では奈良県の山林における植生観察を通じて奈良県の山林を構成する主要な樹種の分布と特徴を学ばせるとともに、シカによる食害の実態を観察し食害防止の取り組みなどについて学習することを通じて環境保全の在り方について考えさせる。	酒井 敦 他
理学部 専門科目	河川生物学 野外実習	河川生態系の構造と機能について理解を深めるために、本学自然環境研究施設（東吉村）に宿泊し、以下の実習を行う。 (1)環境観測、とくに水質の経時的変化：溶存酸素、pH、炭酸濃度、水温の観測 (2)生物調査：水生昆虫類の種類相（採集と同定）に基づく生息場所と水質の評価 (3)水生生物を使つての生理学的実験 (4)魚類の個体数推定	佐藤 宏明 他
生活環境 学部 専門科目	地域居住学	地域居住学では、まちづくりの視点から、様々な社会問題を考え、対応策を検討する。取り上げる題材は、できる限り現時点で社会的に注目されているものとする。この授業を通じて、まちづくりに関する基礎的な知識を獲得し、それを基にした理論的思考を身につける。	中山 徹
生活環境 学部 専門科目	福祉 住環境学	社会の高齢化の急速な進行により、高齢者や障害者のための住環境整備は、現在の大きな課題である。授業では、高齢者および障害者の視点から、住まい、地域、施設にいたる住環境整備の重要性や、理論的背景、具体的な手法等について、体系的に講義する。福祉住環境コーディネーター検定試験の受験者にとっても、基礎講座的な意味をもつ	室崎 千重

3. 「地域志向科目」の事例紹介

地域志向科目29科目のうち、地方創生理解科目の「なら学」、プロジェクト科目の「キャリアデザイン・ゼミナルB(52)(奈良の木造形学習)」ならびに「キャリアデザイン・ゼミナルC(4)(日本の奈良を知る)」の3科目についてその内容を紹介いたします。

(1) 「なら学」(教養教育科目) (*1)

奈良を知り、関心をもたせるための科目で新入学生を中心に全学生に広く受講を推奨しています。学生生活の第1歩を踏み出す地となった「奈良」。「奈良」をキーワードにした奈良女子大学教授陣によるリレー講義形式で奈良について多面的な知的関心や学問的に考える能力を養うことを目的として実施しています。



「大学の奈良ガイド」(なら学プロジェクト編、2009年)

「奈良の概要」	寺岡伸悟
「奈良の祭」	武藤康弘
「都城論」	館野和巳
「万葉論」	西村さとみ
「東大寺論」	西谷地晴美
「奈良公園」	佐藤宏明
「奈良の自然地理」	浅田晴久
「世界遺産建築」	上野邦一
「奈良の仏教美術入門」	加須屋誠
「奈良の地域文化と産業」	寺岡伸悟
「奈良のアートとまちづくり」	山崎明子
「吉野論」	水垣源太郎
「近代奈良と娯楽文化」	内田忠賢
「地図と奈良」	西村雄一郎

授業の感想

様々な視点から奈良を知り、学ぶことができた。

奈良の観光地の歴史を芸術や地理学などいろいろな面から学べたので良かったです。

古代奈良の歴史から現代奈良の特色まで幅広く情報を手に入れることができた。また、奈良の特産品などは自分の周りの人との話題となって楽しかった。

毎回違った視点から奈良を見ることができ、新しい知識が増え、奈良についての理解が深まりました。

奈良は鹿や神社・仏閣だけではないということを学べた。

奈良市だけでなく奈良南部の話や奈良の歴史を学ぶことができた。

奈良の産業やアート産業を学んで奈良の魅力に対する理解が深まり、奈良の外部に発信していくべきコンテンツをもっと知りたいと思うようになりました。

奈良に進学し、奈良のことを少し詳しくなったと思っていたが、私の知っているのは、奈良市にどんなものがあるのかなどといった程度の知識だった。鹿による奈良の宣伝効果と被害、吉野林業、奈良の地理などただ生活しているだけでは気づけないことをこの授業で学べた。

(2)「キャリアデザイン・ゼミナルB(52) (奈良の木造形学習)」キャリア教育科目) (*2)

林業体験や製材所見学を通して奈良南部東部地域の課題のひとつである林業について総合的に理解し、暮らしの中の木の活用について学ぶ科目です。奈良の木を用いた箸とスツール製作などモノ作りを通して素材としての木を理解し、木のある暮らしの実践を考え提案しています。また、奈良県・奈良の木ブランド課が実施する「奈良の木の匠養成塾」に参加させていただき、地域課題に取り組み、地域の課題を解決する能力を身に付ける実践的な教育科目です。

年間授業内容

4月23日	・奈良の木の針葉樹と広葉樹を使用したお箸製作
5月14日	・奈良の木でスツール製作
6月18日	・講義「日本・奈良県の林業・森林」 ・製材所見学
6月26日	・講義「木材の魅力と奈良県産材の特徴」「木造住宅の防耐火設計」「吉野材の特徴と性質・川上サブリの活動について」
7月2日	・林地見学 ・製材所見学 ・木造体育館建設現場見学
7月10日	・講義「不揃いの木を組む」「モノゴトをデザインする～人・モノ・空間の関わりについて～」「吉野材を使った魅力的な住宅使用例」
10月22～	・十津川村の林業を学ぶ：木造小学校の建設現場見学

～23日	間伐体験・皆伐現場見学、木工加工場の見学と十津川木材での木工 ・木のある暮らしで使うモノの提案発表
11月12日	・奈良の木を用いたモノづくり 構想
11月26日	・奈良の木を用いたモノづくり 構想、製作
12月10日	・奈良の木を用いたモノづくり 製作
1月14日	・奈良の木を用いたモノづくり 合評会



【写真 奈良の木の匠養成塾の様子】

(授業の感想)

座学を受けるまで、私は吉野の木について何も知らなかった。しかし、この講義を受けて、吉野の木の素晴らしさを理解できるようになっていったと思う。特に吉野林業は、他の地域と異なるところがあると知って驚いた。その一つに密植がある。吉野材は一般的な植栽に比べ、木が狭い間隔で植えられている。それは木の幹が綺麗な円筒形になるようにするためだと聞いて、なるほどと思った。少なめに植えたら、その分太い幹の木材ができると思うが、木の上の部分と下の部分で太さが違うものが出来てしまい、木材として切り出す時に無駄な部分が出てきてしまうかもしれない。そういう面で吉野材は優れていると思った。また、吉野材が、年輪が細かいことや節が少ないことを知って、とても品質の良い木材なのだとよく分かった。このような木材を生産するためには何度も間伐や枝打ちを行い、手入れをしっかりとしないといけないので、かなり手間がかかるのだと思った。木造住宅の防耐火設計の話も印象に残っている。木は燃えるので木造住宅で火に強いなんてありえないと私は今まで思っていた。しかしこの話を聞いて、その考えは

一変した。木材は燃えるが、ゆっくり燃えるのだと知ったからである。動画で、木材でできたパネルを火が出ているところに被せてどのようにパネルが燃えるかをみる実験を見て、火が直接触れていない面に全く変化がなくて、とても驚いた。そばで立っている作業員の人たちも全く暑そうにしていなくて、木材はゆっくり燃え、熱を伝えにくいということがよく理解できた。確かに、このゆっくり燃えるという点は防耐火設計の建築物を作る上で長所となるなどと思った。また、火源があっても、周りに可燃物がなかったり、空間ができていれば火事は広がらないということも分かった。このようなことに加えて、避難路を確実にする工夫などを考えて設計すれば、木造住宅でも防耐火基準をクリアした建築物を作れるのだと理解できた。

小川さんによる「不揃いの木を組む」の講義もとても印象的であった。小川さんは職人の暮らしを実際の経験をもとに話してくださった。まさに現場で生きる人の生の声だった。小川さんは宮大工の仕事をしていて、法隆寺を修復するには法隆寺を作れる人ではないとダメだと言っていて確かにそうだと感じた。伝統ある建物を後世まで、その美しい姿を保ったまま残していくには高い技術やその修復にかける強い気持ちを持った人ではないとできないことだと思った。また、宮大工になるために弟子入りをして今まで学んできたものは授業で習うこととは全く違うのだということもよく分かった。私たちは何もかもを教えてもらって生きてきたが、親方を見て自分で考えて行動をしてきた小川さんの話を聞くと、自分は受け身になりすぎていたと思った。意思を強く持って一つのことを続けられる芯の強い人間になりたいと思った。

吉野には「枝打ち」という文化があることを初めて知った。節の少ない製材をたくさん市場に出せることは、外見重視の利用者が多く需要が大きいと思うので、売る側、そして買う側の両方に喜ばしいことだと思った。ただひたすら枝打ちをするのではなく、木が呼吸と光合成ができるように、柱の長さ分を考慮した枝打ちを行うという点から、木を大切にする思いが伝わってきた。建築に関わる上で「材を大切にすること」を教えてもらった。木の乾燥機についても初めて知った。ここでも、木の細胞のことまで考えた温度設定をされていて、「木は生き物」というお話からも、木材に寄り添った事業をなされていることが伝わってきた。木材を、効率よくかつ綺麗に乾燥するための丁度いい温度を見つけるまでの過程を思うと、製材になるまでの過程に、奥深さを感じた。吉田製材さんで、加工前の木を実際に触らせてもらった時に、木材がかなり水分を含んでいることがわかり、加工後の製材との違いを実感した。乾燥の必要性和乾燥効率を上げるための乾燥機の存在意義を知ることになった。乾燥機の燃料に化石燃料ではなく、作業過程で出た端材を利用して、空気汚染とごみ問題に影響を及ぼさないという、環境への配慮がなされていたことから、より多くの側面から事業を支えることを学んだ。また、櫻井さんで、集成材を間近で見てその美しさに目を奪われた。集成材は四角形のイメージが強かったが、丸柱もつくれるのだと分かった。ムク材よりも強く、減圧乾燥機のおかげで背割りのない集成材は、需要の大きさから、もっと広まるべきだと思った。「よし坊」とともに吉野材がもっと広まっていくことを願ううえで、魅力を知る私たちが吉野材の拡大を支えていかないといけないとも思った。

乾燥において、吉野の木材を和歌山まで川に流して運んだことや、水中貯木というものがあることを聞いた時、木を水につけたら含水率が大きくなるために乾燥に時間がかかって大変ではないのかと思った。しかし、実際は逆で、乾燥が楽になるのだと知って驚いた。昔からそんなメカ

ニズムがあることを知っていたのかは分からないけれど、知恵の素晴らしさを感じた。また、スギの木の中心は赤く、ヒノキの木の中心は白という基本的なことから、ヤング率や含水率の計測する機械があることも初めて知った。1度の講義にしか参加することができなかったが、1度だけでも得ることが多かった。後期に奈良の木を使って実際に自分たちで物を作る際に、また、これからの自分の建築に関わる姿勢として、建物や家具のもととなる材に気を配ること、大切にすることをしっかり根底に持ち、材を生かしていきたい。

製材所の見学では、過酷な労働環境の中、たくさんの工程を経て吉野材が誕生するのだということを知った。普段は見ることのできない場所だったので貴重な機会だった。徳田銘木さんに見学に行ったときは、木材の使用について新たな考え方を教えてもらった。枝分かれが激しい木やまっすぐでないといった規格外の木を製品化している。階段の手すりにしたり、柱にそのまま使って洗濯物かけたり、幼稚園で園児がのぼったり。使い方がおもしろいし、自然の形をそのままデザインに生かしているのも、家に一本あるだけで存在感がすごい。子供のうちから人工的なものばかりでなくありのままの自然に触れられるのはいいことだと思う。そんな風に木のぬくもりに触れて育った人は、一生木のよさを忘れないのではないだろうか。山林を見学したときは、厳しい現状を目の当たりにしてたくさんのことを考えさせられた。きちんと管理されている部分と、されていない部分。木の根がむき出しになっていて危険な状態の場所もあった。この状況を打破するには、とにかく木を使ってもらうことが一番だと思う。日本で家を建てるのだから、外国産よりも国内産のものを使ったほうが湿気や四季の気候の変化に対応できるはずである。熊本駅の駅舎や五條市の体育館のように、公共の建物に木を使ってもらうことで、国内産の木のよさをたくさんの人に感じてもらえるのは一つの良い方法だと感じた。

座学ではたくさんの貴重なお話を聞くことができた。特に、宮大工さんの話が聞けるのは良い機会だった。宮大工は大きな木を使うから木のくせを直せない。だから生かす。私は高校生のとき、小川さんのお師匠である西岡常一さんの考えが書かれた本を読んだことがあり、そこにも木の良さや適材適所の話などが載っていた。木を巧みに使う技術は受け継がれていかなければならないと感じた。インテリアをデザインするときは、生活のあらゆる知識が必要になるのだと感じた。たとえば印象的だったのがハンガーである。使っていないときはハンガーっぽくなく、インテリアになる。でもしっかり服の形をきれいに保つことができる。この場合だと、衣服に関する知識が必要になる。ものをデザインするときは、それを使う人への深い理解が必要で、そこにどんな問題が隠れているのかをしっかりと見つけて改善できるようなものをつくる、という松本さんの考え方にはとても共感した。奈良の木の匠養成塾を受講するまで、私は奈良の林業について全く考えたことがなかった。しかし、4回の講座を通してその現状を知った今、奈良の木のよさをもっと日本中の人に知ってもらいたいという気持ちを強く抱いている。木であっても、ものによっては腐りにくかったり、うまく使えば火事に強くなったりするというのは目からうろこだった。

後期からはいよいよ奈良の木を用いてもものづくりを考えていくが、たくさんの方から奈良の木の利用についてのアイデアのきっかけをいただけたので、それも参考にしながら、手で触れて香りをかいで、全身で奈良の木のよさを感じてもらえるものを作りたい。

(3)「キャリアデザイン・セミナーC(4) (日本一の奈良を知る)」(キャリア教育科目) (*3)

本講義では、奈良県が誇る「日本一」の産業を外部講師によるリレー講義形式で紹介しています。奈良で働く魅力や暮らす魅力を語っていただく授業で、就職に向けた業界研究の一環として、全学部の学生に受講を推奨しています。

学習目的、目標は以下の通りです。

- ・奈良県に関する様々な知識を獲得、理解し、自分の言葉で表現できるようにする。
- ・奈良県に関する関心を深め、自身の将来を考えるきっかけとする。
- ・「日本一」の実績を守る業界トップの方のお話を、直接聞くことにより、自分の将来を考えるきっかけとする。

(例)キャリア教育科目:「日本一の奈良を知る」

キャリアデザイン・セミナーC(4)
「日本一の奈良を知る」

「奈良県が誇る様々な産業について、外部講師によるリレー講義形式で紹介しています。奈良で働く魅力や暮らす魅力を語っていただく授業で、就職に向けた業界研究の一環として、全学部の学生に受講を推奨しています。」

第1回目 ガイダンス
●9月30日(金) E107教室 担当: 学長 共済会 佐々木 先生 講師: 渡辺 先生
13時~13時45分 13時45分~14時
入場無料

第2回目
「奈良県産の伝統工芸品について」
講師: 奈良県産物協会 代表 佐々木 先生
●10月1日(土) 13時45分~14時30分
入場無料

第3回目
「奈良県産の伝統工芸品について」
講師: 奈良県産物協会 代表 佐々木 先生
●10月1日(土) 14時30分~15時15分
入場無料

第4回目
「奈良県産の伝統工芸品について」
講師: 奈良県産物協会 代表 佐々木 先生
●10月1日(土) 15時15分~16時
入場無料

キャリアデザイン・セミナーC(4)
「日本一の奈良を知る」

「奈良県が誇る様々な産業について、外部講師によるリレー講義形式で紹介しています。奈良で働く魅力や暮らす魅力を語っていただく授業で、就職に向けた業界研究の一環として、全学部の学生に受講を推奨しています。」

第5回目
「奈良県産の伝統工芸品について」
講師: 奈良県産物協会 代表 佐々木 先生
●10月1日(土) 13時45分~14時30分
入場無料

第6回目
「奈良県産の伝統工芸品について」
講師: 奈良県産物協会 代表 佐々木 先生
●10月1日(土) 14時30分~15時15分
入場無料

第7回目
「奈良県産の伝統工芸品について」
講師: 奈良県産物協会 代表 佐々木 先生
●10月1日(土) 15時15分~16時
入場無料

第8回目
「奈良県産の伝統工芸品について」
講師: 奈良県産物協会 代表 佐々木 先生
●10月1日(土) 16時~17時
入場無料

やまと共創郷育センターが開講する授業科目キャリアデザイン・ゼミナールC(4)
「日本一の奈良を知る」 第2回目「キャラクター弁当箱シェア日本一」

「キャラクター弁当箱シェア日本一」と題して開かれました。スケーター株式会社代表取締役鴻池 良一氏をお迎えして、日本一になるまでの道のりについてお話をいただきました。

目標を持ち達成するまでには戦略と戦術を考えることが大切であること、「ナンバーワン」を達成した次は「オンリーワン」を目指しているという大変貴重なお話をお聴きしました。

また、各部署管理職の社員の方々からは、これから社会人となる学生にとってイメージしやすい具体的な仕事内容やその魅力についてお話をいただきました。参加した100人を超える学生達は熱心に聞きっていました。



(授業の感想)

キャラクター弁当箱のシェア日本一の会社がまさか奈良にあるということには驚いた。様々な部署の人達の話聞いていてこの会社には男女の差など関係なく働きやすい環境が整っているということが伝わってきた。今まで就職するなら大手企業への憧れが強かったが、働く環境の良さや長く勤められる会社であるかどうかを見極めて選ぶことも大切なのだと感じた。

私は今回の講義で初めて「スケーター」という会社の存在を知りました。思い返してみると、私達の生活の中でお弁当や水筒といったキャラクター商品はよく目にすることが出来ます。そういった中でシェア60%の数値はすごいものだと思います。会社の方のお話を聞いて、女性の方が活躍できることやアットホームな会社の雰囲気にとってもひかれました。そういった土壌が国内で広く活躍を行うパワーの源になっているように思います。今回のお話で、就業についてとても前向きなイメージを持つことができました。本日はありがとうございました。

机の上に置いてあった商品を見て、お店で見たことのある商品が数多くありましたが、これら商品を奈良に本社のあるスケーター株式会社がつくっていることを初めて知りました。常に前向きでチャレンジ精神をもって、多様なニーズの変化にも柔軟に熱心に対応する。会社の体制に非常に感動しました。また、各部署の方の話からそれぞれの部署で会社全体をより大きく、より良くしていこうと日々奮闘されており、これからどんな商品をつくれるのだろうと楽しみです。本日はありがとうございました。

やまと共創郷育センターが開講する授業科目キャリアデザイン・ゼミナールC(4)
「日本一の奈良を知る」 第3回目「茶釜生産量日本一」

生駒商工会議所会頭 竹茗堂左文 堂主 久保 昌城(号左文)氏を講師としてお迎えし実施されました。講師からは茶釜の歴史では裏千家、武者小路千家で茶釜の形が違ふこと、竹の種類は様々であるが繊維が固く密度が濃い太平洋側の山の竹が最も適していること、茶釜の種類は「ぼてぼて茶釜」「ぶくぶく茶釜」「ばたばた茶釜」等があること等々の説明がありました。

また、茶道人口はピーク時の1/3に減少しており、時代のニーズに合わせて、手軽にお茶を楽しめる商品の開発の必要性や敷居の高さを払拭し、もういちどお茶のブームを起こしたい、そのためには行動をおこさないと何もはじまらないと熱弁を振るわれました。

今回、授業を受けた学生は講師の切望にも似た話を熱心に聞き入っていました。受講学生は順番に展示物を見てまわり、今まで見たことのない実物を間近で見ることができ有意義な時間を過ごしました。



(授業の感想)

奈良県が茶釜の生産量日本一ということで、その技術が残った背景やどのような竹が茶道に向いているのかを知ることができ、勉強になりました。竹の種類によってどの流派でどのように使われているのか、茶釜の制作には内職の方が欠かせないことなど、貴重なお話を聞くことができました。奈良で生産量が多いものや、有名なものと聞かれても、なかなか答えられなかったのですが、授業を受ける毎に奈良県の知らない一面を学べてとても興味深かったです。

今回は「茶釜生産量日本一」ということで茶釜について学びました。私自身、茶道とは無縁の人生を歩んでおり、何も知識がない状態でしたが、実際に本物の茶釜とそれが出来るまでを見ると本当に繊細でかつその中に職人さんにしかできない技がみえて興味をもちました。昔の全盛期には花嫁修業のひとつとして多くの女性にたしなまれてきた茶道も、現在はその3分の1の人口になってしまったらしいので、それを衰退させないためには、より多くの人々が気軽に茶道をできる環境を生み出すことが大事です。久保さんをはじめとする竹茗堂左文さんは初心者にも使いやすいよう、長めのものを作ったり、ジャパンEXPOでフランスに広めたり、今までにない新たな方法で茶釜の魅力を伝えてすごいと思った。有意義な時間をありがとうございました。

奈良県が茶釜生産量日本一でないと、なかなか聞くことのできない茶釜、お茶に関する話を聞けて貴重な経験でした。1日に2人で10個作れないぐらいというお話を聞いて、それでも生産量日本一を保っているということは、継続的な信念と努力がないとできないと思う

ので、本当に凄いと感じました。最後の「行動を起こさなければ何も始まらない」という言葉がとても胸に響きました。

やまと共創郷育センターが開講する授業科目キャリアデザイン・ゼミナールC(4) 「日本一の奈良を知る」 第4回目「グローブ生産量日本一」

三宅町商工会 寺澤 潤一氏から、聖徳太子に由来する「太子道の集い」、生誕800年を迎える三宅町出身の僧侶忍性に関する事など三宅町の魅力について話がありました。吉川清商店 吉川 誉将氏からは、皮を裁断していた職人が、スポーツメーカーミズノから依頼されたことがグローブづくりのはじまりとされていることなど三宅町とグローブづくりの歴史、素材選びから仕上げまでグローブが出来るまでの作業工程について話があり、後継者問題等、グローブ業界の課題について触れられ、三宅町のグローブづくりの歴史を広く伝えていくことや海外生産している大手メーカーに負けない、「made in japan」ブランドを確立していきたいとの熱意がこもった話に参加学生は感動していました。有限会社ティー・エー・シーインターナショナル代表取締役 置本 貴司氏から、若手グローブ作り職人さんとの出会いを通して、三宅町だからできることではないかと考え、グローブ作りの技術を生かしたオリジナルブランドを立ち上げたこと、現在、高品質のレザーを用いた靴を中心にオリジナル商品を販売中で、アイデアを生かし、世界へ向けて展開していきたいと意欲的な取り組みついでの話がありました。



(授業の感想)

グローブをはじめとしたスポーツ用品は、私にとってはブランドのものの方が価値があると思っていました。それはやっぱり、今回のような商工会や職人さんたちのことを何も知らなかったからなんだなと思いました。しかし、今回実際に作ったり関わったりしている人の話を聞いて見方が変わりました。グローブの製造工程もたくさんの工程があって、その中には手作業も必要でこれぞ職人というかんじだなと思いました。グローブに約30ものパーツがあることや、子牛の革が最適だということも初めて知れてとてもおもしろかったです。また、グローブ作りの技術力を他の商品に生かすというアイデアも素晴らしいなと思いました。1つの小さなアイデアが色んな人に伝わってたくさんの人と一緒に1つのものを作り上げる、そんな仕事を私も将来やってみたいです。とてもあこがれます。今回のお話を聞いて、グローブへの関心が高まったとともに、自分も普段からアイデアを形にするようにしていきたいと思いました。

地場産業という観点から企業について知ることができて面白かったです。三宅町についての説明からしていただけたので、グローブ生産に関して町おこしと密着していることがよく感じられました。スポーツ用品産業にも興味があり、今日講義に参加させていただきましたが、町をおこしていくという仕事にもとても興味がわきました。三宅町のグローブ業界でも他の伝統産業でも聞くような後継者問題や町の外に若者がでてしまうことなど、どう町ぐるみで支援していくのかということにも興味がありますし、やってみたい！考えてみたい！と

も思いました。私は、野球はしていませんが、スポーツはたくさんしてきたので、スポーツに関連する仕事に惹かれます。少しそのような仕事の内側が見られ面白かったです。

たくさんの情報をとこところにちりばめながらお話していただいたので、最後まで楽しんで学ぶことができた。野球は好きだが三宅町という名前もスポーツ用品特にグローブ作りが盛んであるということも知らなかった。なんでもネットで調べてしまうIT世代の若者なので、ネットで検索して面白いものがあればぜひ訪ねてみたいと思う。

やまと共創郷育センターが開講する授業科目キャリアデザイン・ゼミナールC(4)

「日本一の奈良を知る」 第5回目「業務用卵焼き機シェア日本一」

株式会社品川工業所庄野明社長をお招きして、「為己不希財」、「為客不辞責財」を堅持し、実行してきたこと、社章(3つのQ)の成り立ち、社訓が社章を基に考案されている等の紹介がありました。1910年の創業後、全国菓子大博覧会において、製菓機器が一等金牌を受賞したこと、モダンミキサー(餅(モ)や団子(ダン)製造用ミキサー)の開発、万能攪拌機の組み立て、工場の新築が分岐点となり、調理の工業用製造装置の開発を中心に発展。高速混練造粒機「トリプルマスター」で農林水産大臣賞を受賞、第一回奈良県ビジネス大賞最優秀賞を受賞するなどの輝かしい実績や、本社工場を新築し大型テスト室・事務所フロアを一新したこと等が話されました。製品紹介では、フラット型炒め機「AQ-F型」による炒飯と焼きそばや卵焼成機(ロールタイプ)を使った卵焼きの調理過程の紹介があり、「奈良から世界へ」躍進していく品川工業所の現状と未来像について話され、最後に、次の100年を目指し、舞台裏から世界の生活を支える企業として品川工業所は革新・成長を続けていると淡々と語られる社長の人柄や身の回りの生活用品が品川工業所の開発製品であることを知り、学生は大きな感銘を受けていました。



(授業の感想)

メーカーの商品はすべて機械まで一つの会社で作っているイメージだったので、おいしいお菓子やご飯の製作に製造装置を開発している会社にも関わっていることを知りました。炒飯や焼きそばを一瞬で作ってしまう機械や大量生産する商品を作る機械の技術は見ていておもしろいので工場見学など見に行きたくなりました。たまご焼きの機械はロールする過程は人間がまくのも難しいと思うので機械の動きで再現しているのはすごいと思いました。前に並べてあった商品もほとんど見たことがあったので、品川工業所の機械で作られたものをかなり食べていると思います。「奈良から世界へ」という話では海外に機械を輸出して技術を伝え、「たまご焼き」のような日本の味が世界に広がることは素晴らしいと思います。日本の食を支えている方の話を聞けてよかったです。ありがとうございました。

食品加工機械のような工業機械を作る企業は、普段会社の名前を見ることはないのですが、この品川工業所の機械を使っている企業が多いのにとっても驚きました。セブンイレブンのシェーククリームやバックサラダ、カルビーのお菓子などはとても身近です。日本を支える企業のひとつだなあと思ったのと同時に、奈良の企業であることにとっても感動しました。

品川工業所さんでは卵焼きのような食品だけでなく、製菓や医薬品などさまざまな分野において作られていることを知りました。スーパーやコンビニなどでよく見かける商品もここで製造されていたり、その機械によって作られていることを知り興味深い内容でした。私たちの日頃食べている食品などがこのような機械で作られているのだな、と製造過程を知るとは食文化を考えるうえで大切な視点の一つだと気づくことができました。焼きそばや炒飯を作っている過程で使われている機械も工場見学をしているような気分でした。今回の講義をきっかけとして改めて食について考えてみたいと感じました。

やまと共創郷育センターが開講する授業科目キャリアデザイン・ゼミナールC(4) 「日本一の奈良を知る」 第6回目「集成材出荷額日本一」

奈良県森林技術センター伊藤貴文所長から、集成材産地としては奈良県南部地域に限られた地域産業としては日本唯一であるとの話があり、実際の木片等を使ってそれぞれの木の特性(樹液のにおい、シロアリに対する耐性等の性質)、育成の仕方による違い、桐の木をプレスした木の方が冷たく感じる、プレスした木に樹脂を塗ることにより鉄のような木材を製作することができることや木片の膨張率の違い(フラスコの中の木による工作物を取り出すことができない)等について、丁寧に説明がありました。また、パワーポイントを使って木質材料の種類ごとのエレメントに関すること、合成材の繊維方向による特徴、集成材の利点として製材よりも集成材の方が任意の寸法の部材を使用するので無駄が少ないこと、均一に乾燥した部材を接着して製作するので施工後に変形が少ないこと、無節の製材を製造できること、任意の強度の部材の製造が可能であることや任意の曲率半径の湾曲部材が作れること等の話がありました。次いで、吉野の美林に関わる話の中で、吉野は林業の発祥の地であること、長い年月をかけて大木を育成する方法、年輪緻密な材を作る工夫や吉野杉の強度について、また、吉野林業に密接に関係する樽丸生産の成り立ち(味噌の需要が増加したことによる)、樽と桶の違い、"撞木"生産のシェアの100%は奈良県産のものであること、「板」(木が反る)と「枳」(木がまっすぐ)の漢字の意味等の知らなかった話に受講学生達は興味津々な面持ちで聞き入っていました。



(授業の感想)

おもしろかったです。初めて知ることが多くて興味深かったし奈良の吉野杉が昔からすぐれていて、人々が努力してきたことも分かってよかったです。集成材の有効性についても具体的に説明して下さってよく分かりました。ありがとうございました。

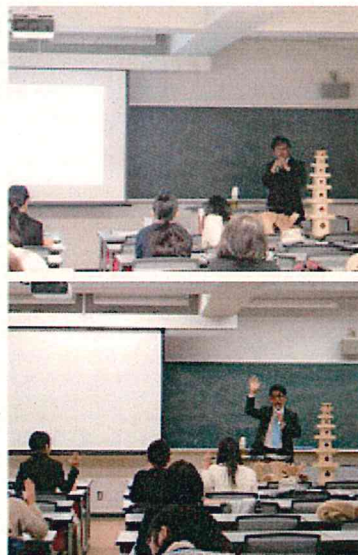
実際に木材に触れてみると、金属製品などと比べて、やわらかくあたたかいような印象でした。また木材には香りもあって、非常に落ち着くものでした。オイルの香りは5つともそれぞれに違って、さわやかなものから深い香りまでさまざまな香りがあることに気づきました。木材の性質を利用して工夫をこらした製品を手にとって、改めて木のあたたかみに触れ、木材の素晴らしさ、魅力に気づくことができました。身近にある木材を大切にしていきたいと思いました。

集成材というものの存在は、CLTとセットでなんとなく知っている程度でした。今回の講義で、集成材の優れた点が良くわかりましたし、奈良県中部～南部に根付いた産業であることを初めて知ることができました。また、生活の中に溶け込んでいる木材にも、本当にいろんな種類があり、いろいろな工夫がなされているんだなあと感じました。日本の山林を守るためにも国産の木材を活用していくおとはこれから本当に重要なので、魅力的な製品がますます増えてほしいと、心から思います。CLTについてももう少しお話聞きたかったです。

木材の特徴について、実際に手で触れたりしながら講義を聞くことができたので、木材製品についてさらに興味を持つことができました。また、奈良県は林業が盛んなことは知っていましたが、吉野林業が無節材を生産していることや集成材の利点、どこに集成材が使われているか、集成材の特徴などについては知らなかったもので、勉強になりました。吉野の木々の特徴についても知る機会はないと思うので、奈良県の林業について詳しく知りたいです。

やまと共創郷育センターが開講する授業科目キャリアデザイン・ゼミナールC(4) 「日本一の奈良を知る」 第7回目「割り箸生産量日本一」

割り箸・箸袋製造卸「兵庫商店」代表兵庫保行氏、箸の販売店の峠喜重朗商店代表取締役の峠喜志嗣氏をお招きして実施されました。兵庫氏から、割り箸づくりルーツ、下市町が割り箸生産に欠かせない杉の生育に適した気候であること、割り箸は桶や樽丸作りの際に捨てられる白身(木材の白い部分)を利用して生産されていたこと(現在は桶等の生産が減少したため利用されていない。)、杉の割り箸はのこぎりを使い、桧の割り箸は刃物を使用して生産されていること、割り箸の種類やその種類によって販売価格が異なること(一膳3～8円、高い物で100円)、また、割り箸の生産は数年前まで森林破壊に繋がっていると話題になったが、そうではなく捨てるはずの切れ端を利用しており(割り箸の木材利用率は0.1%程度)、洗剤を使う必要がなく川や海を汚さないし、捨てられた割り箸は土に帰るので究極のリサイクル商品であるとの話をされました。次に峠氏から、割り箸の生産は竹が利用されていたが、江戸時代にはいと木製の割り箸が作られるようになったこと、和食が無形の世界遺産に登録されたことにより、割り箸が世界に普及したこと、国内産の割り箸はJAL、シンガポール航空やエールフランス航空の機内食に利用されていること、全世界の日本食店は9万店(2015年)に増加しており割り箸の需要は伸びていること、割り箸の生産国は中国、日本、韓国、ベトナム等となっていると話されました。また三宝の9割が下市町で生産されているとの話もあり下市町や割り箸等についての見識を深める有意義な授業となりました。



(授業の感想)

「割り箸はエコ、究極のリサイクル商品」と聞いて、はじめは驚きましたが、お話を聴いて納得できました。下市町も田舎でありながらその良さがたくさん見られそうだととても行ってみたくなりました。300年前にも割り箸が売られていたことなど、とても奈良の歴史が感じられて興味深かったです。

割り箸について今まで使い捨てするのはもったいない、なるべく自分の物を使おうという意識をもっていましたが、実は廃材を利用していることが印象的でした。日本の食文化が世

界に広まっている超勢とともに吉野の割り箸と吉野の自然、歴史なども広まると素敵だと思います。また、下市町は割り箸だけでなく神具などの生産や柿、ハーブなど自然に密着してうまく活用する取り組みがなされていて学生のうちに一度訪れてみたいです。ゆるキャラと伝統工芸、文化などを一緒にPRする取組も興味深いので、今度機会があったらコミュニケーションに参加してみたいです。

割りばしの歴史が思ったより古いことに驚きました。また、割り箸というと森林破壊というイメージが一般的にはあったと思いますが、実は木材の使われない部分を利用したエコなものであるという認識がもっと広がって、エコな割り箸を積極的に使うようになったらいいと思います。また、下市町という名前は聞いたことはありましたが、どこにあるのか、どんなところかということとはあまり知らなかったもので、パンフレットがいただけて良かったです。

私は最近まで割り箸は環境によくないものだと思っていました。しかし、今回の講義で割り箸は柱などを作った残りをういて作っているということが分かりました。それを聞いて、割り箸は木を有効活用した環境に優しいものなのだなと思いました。さらに、300年も前から売られていたことでとても驚きました。また、下市町では箸の他にも柿などのフルーツや、人気が高まってきているピザハウスなど、興味のそそられるものが多くあることも分かったので、ぜひ一度遊びに行ってみたいと思いました。

やまと共創郷育センターが開講する授業科目キャリアデザイン・ゼミナールC(4)

「日本一の奈良を知る」 第8回目「金魚販売量日本一」

大和郡山市地域振興課観光戦略室長 植田早祐美様、同産業水産課農業・金魚係長 宮本和幸様をお招きして実施されました。宮本様から金魚の歴史(約2000年前で、中国南部で突然変異(赤色)した野生のフナが発見され、選別淘汰の末、今日の金魚に至ったこと、大和郡山市における金魚養殖の由来は、1724年に柳澤吉里侯が大和郡山へ入部のときに始まり、明治維新後は職録を失った藩士や農家の副業として盛んになったこと)、金魚の販売量(平成5年をピークに減少の一途を辿っており、その要因としては養殖業者の高齢化や需要の減少など)、改善策として金魚産業の活性化のために「金魚品評会」、「優良企業養殖コンクール」、「金魚養殖の体験学習」や「金魚マイスター養成塾」等を実施しているとの話がありました。植田様からは金魚で町おこしと題して「全国金魚すくい選手権」の紹介を女性向け漫画雑誌に掲載の「すくってごらん」の描写を通してお話しされました。大会にはつばがある帽子を被ることが禁止されている理由、金魚を上手にすくうコツや大会は独特のルールにより行われており、今年度の大会にはスタッフとして2名の奈良女生の協力があったことなどでした。「平和のシンボル、金魚が泳ぐ城下町」にある郡山城跡に関わるイベントなどの話がありました。受講学生の多くは大和郡山市の金魚が有名であることは知っているようでしたが、講師から掘り下げられた金魚や郡山城等の話を初めて聴き大和郡山市に関する見識を深めることになり有意義な授業となりました。



(授業の感想)

お祭りでは必ず「金魚すくい」があり身近な魚なので、奈良県の大和郡山市が販売量日本一というのに驚きました。海なし県なのに魚の養殖で日本一なのが面白いと思いました。金魚の入った電話ボックスや金魚のオブジェなど実際に見てみたいです。大和郡山のイオンの金魚のオブジェは見たことがありました。下宿でアパートがペット禁止なので魚も飼えない(?)ですが、金魚に癒されたいのでいつか飼いたいと思いました。養殖の過程で「選別」をするということでしたが、尾が悪かったり色があまり出ていない金魚も、金魚すくいなどで利用されると聞いて安心しました。「竹のす」や「通し」などあまり耳にしない道具を使うので興味がわきました。金魚すくい大会の全国大会があったり、漫画に大和郡山市が取り上げられていたり知らないことがたくさんあったので、奈良県のことを色々知れて良かったです。ありがとうございました。

金魚の種類の豊富さに驚きました。帽子のつばが禁止である理由が面白いなと思いました。何か一つのことに特化して町おこしをPRするのはリスクもあると思うのですが、むしろ全国のマニアックな人々を観光に呼び寄せることができて良いと思いました。

「まちおこし」についてとても興味があります。金魚すくい選手権大会については「テレビチャンピオン」で観て知っていました。大和郡山というと金魚！みたいなイメージがあります。まちおこしをするというときにどのようにこのイメージを使うのかとか今日大和郡山におけるまちおこし活動を知れておもしろかったです。金魚のおうちデザインコンテストという取り組みもおもしろいと思います。そのような戦略を考えて活性化させていくというお仕事はやりがいもありそうだなと感じます。電話ボックスを金魚の家にしちゃうとことか、どうやったらそんな案を思いついて、実行に移せるんだろう、、、そういうことを考えるのは大変だと思うけど楽しそう！と思いました。今日お話を聞いて漫画も面白そうと思いましたし、行ってみたい！と純粋に思いました。実際に金魚電話ボックスや机に金魚が泳ぐカフェ、50円で金魚すくいのできる道場など全然知らなかったのですが面白そうなものがたくさんだと思いました。

4. 学生向けセミナーの実施

奈良女子大学やまと共創郷育センターでは、「地域志向科目」の実施の他、広く学生向けに「奈良」をさらに身近に感じていただくことや、多様な働き方を学ぶため、学生向けセミナーを4回実施いたしました。

やまと共創郷育センター第1回セミナーの開催 「奈良で輝く女性たち」

平成28年6月28日(火)

奈良県及び株式会社ウーマンライフ新聞社様のご協力を得て、やまと共創郷育センター第1回セミナー「奈良で輝く女性たち」を開催いたしました。

セミナーの前半では、奈良県こども・女性局女性活躍推進課長 金剛真紀 様より女性の活躍に関する奈良県の現状と「奈良県女性の輝き・活躍促進計画」の考え方について、さらに奈良県が進めておられる「女性翻訳者の養成・活躍支援」事業についてご紹介いただいた後、奈良県女性センター所長 上中 三恵 様より奈良県女性センターの取り組みについてご紹介いただきました。

セミナーの後半では、実際に奈良県で活躍している女性の先輩として株式会社ウーマンライフ新聞社取締役編集長 河本 敏江 様に女性の感性を生かした『女性を楽しむフリーペーパー作り』についてご紹介いただきました。



学生の感想

- ・女性支援に興味があったから。
- ・女性の社会進出と活躍に興味があるから
- ・奈良の女性の活躍について興味があったからです。
- ・女性が男性と同じ立場で働くことがよいと考えていたので、女性らしさを生かして働かれているお話が新鮮でした。
- ・女性センターの催しを知れてよかった。ぜひ時間を調整して行ってみたいと思う。
- ・将来の視野を広げるために様々な方のお話を聞きたいと思っており、また、自分自身もフリーペーパー団体に入っていて、河本さんの話に興味があったため。
- ・私自身も、地域で生き生きと働けるようになりたいと思っているので、今回のお話が、今後の自分の将来の参考になればと思い受講しました。

やまと共創郷育センター第2回セミナーの開催 「奈良の世界遺産」

平成28年7月26日(火)

奈良県及び奈良市観光協会様のご協力を得てやまと共創郷育センター第2回セミナー「奈良の世界遺産」を開催いたしました。

セミナーの前半では、奈良県地域振興部文化資源活用課 小池香津江 様より奈良県の世界遺産とその活用事例についてご紹介いただきました。セミナーの後半では、公益社団法人奈良市観光協会専務理事 鷺見哲男 様より「モノ」の観光から「コト・ヒト」の観光へという奈良市観光協会の事業展開についてご説明いただきました。参加者からは観光産業に対して興味が沸いたとの意見が多く寄せられました。



学生の感想

- ・観光のやろうとしていることがわかりやすかったです。
- ・「奈良ってどんなところですか？」と聞かれたらきちんと答えられるようになりたいと思いました。
- ・今まで観光業界にはまったく興味がなかったですが、すごく興味が湧きました。私たち学生のことを考えた話をしてくださったので為になったし、自分について考えることもできたので良かったです。
- ・奈良の観光がいかんじてできているか、点と点が結ばなければならないという内容が印象深かったです。
- ・奈良の世界遺産について知っているようで知らないことがたくさんありました。
- ・もっと奈良のことについて大学時代に知りたいなと思いました。
- ・スペイン人、イタリア人が奈良にたくさん旅行きているのにびっくりしました。
- ・JR 奈良から興福寺へ向かう道が『平成→昭和→大正→…』ってなっているのを初めて気づきました。
- ・「モノ→ヒト・コト」の中身や重要性などがよくわかりました。奈良県全体にとっても大切なことだと思いました。

やまと共創郷育センター第3回セミナーの開催 「未来の働くスタイル」

平成28年10月 5日(水)

奈良県内で活躍されているWomen's Future Center 代表 栗本 恭子 氏をお招きしてやまと共創郷育センター第3回セミナー「未来の働くスタイル」を開催いたしました。

第一部は、栗本代表から女性の働くスタイルの変化に対応した女性の働き方について講演が行われました。

第二部は、Future sessionというワークショップを通して、参加者一人ひとりが未来思考で女性の働き方について考えました。

全体を通して講演を聞き、また参加者同士が意見を出しあって刺激し合い、将来の女性(自分)の働き方や自身の人生設計について、考える良い機会となりました。

参加者から終了後、採ったアンケート結果によると大変満足であったとの意見が多く寄せられ、有意義なセミナーであったことが伺われました。



学生の感想

- ・想像していたより少し抽象的なワークだったのですが、自分が想像していなかったような“やるべきこと”を発見することができました。ありがとうございました。
- ・普段、同世代の人としか関わりがないので広い世代でいろんな立場の人たちと意見を交換できて、有意義な時間だった。
- ・まだ働くということがぼんやりとしか考えられていないので、これを機に人生設計をしっかりと考えていこうと思いました。貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。
- ・取り組みや、様々な人の意見等を聞くことができて良かったです。ありがとうございました。
- ・グループワークを通して、自分の今後について考えることができて、具体的に何をすれば良いのか少し見えてきました。
- ・将来、働くことも子育てもあきらめたくなくて、それって難しいことなのかなと思っていたけれど、女性の活躍の場は思っている以上に用意されているのだなと思いました。
- ・栗本先生がご経験された苦労、特に子育てはもう少し具体的にお聞きしたかったです。どの様にして、苦労を乗り越えられて来たのかアドバイスになると思いましたので…。

やまと共創郷育センター第4回セミナーの開催
「奈良クラブの活動とその歩み-奈良に」リーグクラブを-」

平成28年10月27日(木)

奈良クラブGMの矢部次郎氏を講師として、やまと共創郷育センター第4回セミナー「奈良クラブの活動とその歩み-奈良に」リーグクラブを-」を開催いたしました。

講師の矢部次郎氏から、サッカーに関わる世界の人口、サッカークラブの収益(放映権による収入等)やサッカーを取り巻く環境についてのお話がありました。奈良県のサッカーの状況に関して、奈良県はJリーグに加盟していない9県の中の1県であること、自身はプロサッカー選手(名古屋グランパス)であったこと、故郷の奈良県に愛着を持っていることもあり、奈良県にJリーグに加盟できるプロのサッカークラブを創設したいとの思いで奈良クラブを設立したこと等々の話がありました。

また、サッカーは技術より人間性であるとの理念に基づき、低学年から立ち振る舞いや身だしなみの教育を推奨していること、奈良クラブを通じて選手として町の為に活躍する人材を育成することや周りを元気にすることを理想に掲げクラブ運営に取り組んでいるとの話がありました。

参加学生達は今まであまり目に触れることや聞いたことのない講師の話に聞き入っていました。



学生の感想

- ・サッカーの話だと思っていましたが、スポーツを通じた人材育成、地元の盛り上げなどの話が主だったため、スポーツに興味がなかったですけど面白かったです。
- ・奈良クラブのこと、スポーツの力を矢部さんだからできる話をたくさんきかせてもらってすごく良い経験になりました。話もわかりやすく、奈良クラブのことを楽しく知ることができました。「勝ち負けよりも大切なものがある」というコンセプトの意味が深く分かって面白かったです。
- ・正直、奈良クラブのことはあまり知らなかったのですが、ただサッカーをするだけでなく、人と町とこんなにも大きくかかわっているということに驚きました。スポーツの力の大きさを知ることができ、とても勉強になりました。
- ・サッカーについてよく知らなかったので、初めて聞くことも多くていろいろ知れて良かったです。地域に密着型のスポーツクラブとして、これからも、みんなが楽しめる！そんなクラブで頑張ってもらいたいです。
- ・私も静岡出身のため地元ではサッカーが盛んでクラスに必ず5人はサッカークラブに入っている同級生がいました。いつも近鉄奈良駅の近くで奈良クラブのビラを配っている姿を拝見しているので、今回のお話はとても興味深かったです。頑張ってください。
- ・スポーツの力によって町の誇り、子供たちの憧れとなるクラブ作り、地域創造にかける熱い思いを感じました。

5. 地域活動拠点・下市アクティビティセンターの開所

「奈良女子大学下市アクティビティセンター」開所式 平成28年7月16日(土)

奈良女子大学は下市町農村環境改善センターに「奈良女子大学下市アクティビティセンター」を開所し、開所式を実施しました。

奈良女子大学と下市町は包括的連携協定を締結するとともに「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」においては事業協働機関として地方創生に向けて協働しているところですが、「奈良女子大学下市アクティビティセンター」はCOC+事業で学生が下市町を訪問した際の活動拠点として、また、教職員・学生と下市町の方とが交流を深めるコミュニティスペースとして利用すべく開所したサテライト施設です。

今後、学生や町民の意見を反映しながら、観光振興、社会ネットワークの構築といった同町の地域創生に寄与できる事業を展開していきます。センター内には同町の木工舎で製作された木製机・長椅子も配置され、学生が同町の地場産業に触れながら学ぶことができる環境ともなっています。



6. 活動報告事例

- (1) 地域居住学における野迫川村での活動報告：担当教員 中山 徹
- (2) 住環境学基礎実習における十津川村での活動報告：担当教員 室崎 千重
- (3) 中山間地域における活動報告：担当教員 高田 将志
- (4) 地域コミュニティにおける活動報告：担当教員 水垣 源太郎
- (5) 歴史学実習における活動報告：担当教員 西谷地 晴美 他